

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：徳川美術館 「大名文化プロジェクト 2009 -視聴覚障害者および教員へ教育普及プログラムの拡大-」

事業者名：徳川美術館

住所：愛知県名古屋市東区徳川町1017

TEL：052-935-6262

FAX：052-935-9444

HPアドレス：<http://www.tokugawa-art-museum.jp/>

連携事業者名：

会 場：徳川美術館

事業期間：平成21年7月9日（木）～ 平成22年3月15日（月）



## 1. 館の使命と本事業の関係

## 2. 企画内容

### ①事業目的

尾張徳川家の大名道具を収蔵し、その価値と歴史を多面的に展示公開している徳川美術館の特性を活かし、日本古来の伝統文化の普及を図る。

さらに、その対象を視聴覚障害者や小中学校の教員など、普段は美術館などへ足を向けることが少ない方々を対象に考案したプログラムを実施することにより、幅広い人々が、日常から日本の伝統文化に親しく接することのできる場をつくとともに、日本文化への理解や愛着、誇りを醸成することをめざす。

### ②事業概要

#### 1. 「小・中学校教諭を対象とした伝統文化体験プログラムセミナー」

(地域連携強化事業・ミュージアム支援地域人材育成事業)

平成21年7月28日(火) 中学校の部：午前10時30分～12時 小学校の部：午後2時～3時30分

内 容：現在まで実施してきた子どもを対象とする大名文化体験プログラムの中から、長篠合戦図屏風の解説と火縄銃、刀の解体・組立を小・中学校教諭に紹介、実際に火縄銃や刀の解体・組立の体験を実施。

#### 2. 「視聴覚障害者のための鑑賞プログラム」(地域連携強化事業・ミュージアム支援地域人材育成事業)

##### A 視覚障害者のための鑑賞プログラム

##### ①第1回研修 平成21年7月9日(木)午前

名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループによる「日本の美術の愛し方」展の展示解説の見学と模造刀の組立・解体の体験を実施。

##### ②第2回研修 平成21年10月16日 午前10時～12時

視覚障害について・視覚障害の方との接し方・注意事項、実際の視覚障害者の介添えの現地研修。

##### ③第3回研修 平成22年2月18日(木) 午後1時～3時

3月11日の視覚障害者のための鑑賞会のために、当日のスケジュール・レプリカ・配付資料の確認、雛まつり展の解説、視覚障害者の引率、展示室での実際の解説を研修。

##### ④視覚障害者のための鑑賞会と聞香 平成22年3月11日(木) 午後1時30分～3時30分

名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループに協力いただき、当館特別展「尾張徳川家の雛まつり」の会期にあわせ、視覚障害者を対象とする鑑賞会と「聞香」の伝統文化体験プログラムを実施。

##### B 聴覚障害者のための鑑賞プログラム

##### ①第1回研修 平成21年10月16日(木) 午後1時～3時

聴覚障害について・聴覚障害の方との接し方・注意事項、手話ほかの研修。

##### ②聴覚障害者のための鑑賞会と香袋づくり 平成22年3月7日(日) 午後1時30分～3時30分

特別展「尾張徳川家の雛まつり」を聴覚障害者を対象に鑑賞会と香袋づくりの体験プログラムを実施。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

##### 1. 「小・中学校教諭を対象とした伝統文化体験プログラムセミナー」

(地域連携強化事業・ミュージアム支援地域人材育成事業)

①実施日：平成21年7月28日(火)

②参加者：中学校の部：午前10時30分～12時 愛知県内中学校教諭 10名

小学校の部：午後2時～3時30分 愛知県内小学校教諭 35名

③内 容：これまでに同館が実施してきた子どもを対象とする大名文化体験プログラムの中から、長篠合戦図屏風の解説と火縄銃、刀の解体・組立を小・中学校教諭に紹介、実際に火縄銃や刀の解体・組立の体験を実施。



##### 2. 「視覚障害者のための鑑賞プログラム」(地域連携強化事業・ミュージアム支援地域人材育成事業)

###### A 視覚障害者のための鑑賞プログラム

①第1回研修 平成21年7月9日(木) 午前 当館ボランティア53名参加。

名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループの引率で、視覚障害者9名が来館。9グループに分かれ、「日本の美術の愛し方」展の鑑賞と、模造刀の組立・解体の体験を実施。美術ガイドボランティアによる展示室内での展示説明の様子を見学、模造刀の組立・解体で、当館ボランティアが体験の手引きをした。その後、視覚障害者から意見を聞いた。

②第2回研修 平成21年10月16日 午前10時～12時 当館ボランティア37名参加。

名古屋市身体障害者福祉連合会の近藤さん(視覚障害者)と中村区障害者地域生活支援センターの久野さん(介添え)を講師に迎え、視覚障害について・視覚障害の方との接し方・注意事項、実際の視覚障害者の介添えの実地、質疑応答を実施。

③第3回研修 平成22年2月18日(木) 午後1時～3時 当館ボランティア20名、YWCAガイドボランティア10名が参加。

3月11日の視覚障害者のための鑑賞会のために、当日のスケジュール・レプリカ・配付資料の確認、雛まつり展の解説、視覚障害者の引率、展示室での実際の解説を研修。

④視覚障害者のための鑑賞会と聞香 平成22年3月11日(木) 午後1時30分～3時30分

視覚障害者14名が参加。名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループに協力いただき、当館特別展「尾張徳川家の雛まつり」の会期にあわせ、視覚障害者を対象とする展覧会鑑賞と「聞香」の伝統文化体験プログラムを実施。



10月16日 研修



3月11日視覚障害者のための鑑賞会と聞香

## B 視覚障害者のための鑑賞プログラム

①第1回研修 平成21年10月16日(木) 午後1時～3時 当館ボランティア46名参加。

名身連聴覚言語障害者情報文化センター所長笹川純子さんを講師に迎え、聴覚障害について・聴覚障害の方との接し方・注意事項、手話、質疑応答を実施。

②聴覚障害者のための鑑賞会と香袋づくり 平成22年3月7日(日) 午後1時30分～3時30分

聴覚障害者10名が参加。手話通訳および要約筆記をまじえて、当館特別展「尾張徳川家の雛まつり」を聴覚障害者を対象に展覧会鑑賞と香袋づくりの体験プログラムを実施。



3月7日聴覚障害者のための鑑賞会と香袋づくり

## (2) 参加者の数

参加者人数 延べ 235人

内 訳：

### 1 「小・中学校教諭を対象とした伝統文化体験プログラムセミナー」

中学校教諭 10名、小学校教諭 35名

### 2 「視聴覚障害者のための鑑賞プログラム」

#### A 視覚障害者のための鑑賞プログラム

①第1回研修 当館ボランティア53名参加

②第2回研修 当館ボランティア37名加

③第3回研修 当館ボランティア20名、YWCAガイドボランティア10名

④視覚障害者のための鑑賞会と聞香 視覚障害者14名

#### B 聴覚障害者のための鑑賞プログラム

①第1回研修 当館ボランティア46名参加

②聴覚障害者のための鑑賞会と香袋づくり 聴覚障害者10名

## (3) 事業により作成した印刷物等

当館の実状にあわせた独自の視聴覚障害者対応マニュアルを作成し、ボランティア300名に配付。

## 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

### 1. 「小・中学校教諭を対象とした伝統文化体験プログラムセミナー」

今年で3回目を迎え、当館の教育普及プログラムを広く紹介できるようになった。今回は特に社会・歴史の教科に関連する、長篠合戦図屏風や火縄銃の紹介であったため、参加者も多かった。また、終了後、来館しての体験学習や出張教室の依頼が増えた。

### 2. 「視聴覚障害者のための鑑賞プログラム」

3回のボランティア研修を重ね、実践的な活動が可能になった。3月11日の「より多くの方に美術

鑑賞の楽しみを視覚障害者のための鑑賞会と聞香」では、障害者の方とコミュニケーションをとり、リラックスしたなかで、展示作品の説明ができた。参加した障害者からはボランティアの説明により深く鑑賞ができたと感想があった。感想の中には反省すべき点も多く、今回の研修と鑑賞会を生かし、視覚障害者からの鑑賞希望があった場合、解説希望を受け入れ、鑑賞会の実施を計画したい。

#### ＜参加者の感想＞

- ・尾張徳川家のひな祭りを初めて鑑賞しました。すごく豪華なおひな様、説明を聞きながらタイムスリップして楽しいおひな様が出来たような気分になりました。
- ・徳川のおひなさま、ものすごい数でしたね。どのおひなさまも高貴で素晴らしくて、大きいのから豆つぶのようなおひなさままで。天皇家と武家のおひなさまの違いがわかったり、小さな琴の爪まで丹精込めて作られていて、ちゃんと家紋入りで。おひなさまの由来やお道具の数々のすばらしさに感動しました。あまりにも数多いために説明することが多くて、おひなさまのお顔の表情はあまり説明がなかったような…。(YWCA美術ガイドボランティアグループの方が)時々お内裏さまはおちょぼ口で…とか、お口が少し開いて笑っているようですとか教えてくださって、これがもう私にはたまらなくよかった。おひなさまの着物も織りのところからもうおひなさま用に織られていてとても立派だとか、当時の姫君たちは、このおひなさまをどんな気持ちでながめていたのかしら！これを作った人たちの気持ちはどうだったのかしら？おひなさまの前で説明を聞きながらいろんなことを想像しました。子供の頃のおひなさまは親が飾るだけで、静寂な座敷に整然と並んでいて、私はボンヤリとながめるだけで近寄りがたくて…。おすまし顔でありあまり表情のないお顔だと思っていました。わが家には娘に恵まれなかったので、おひなさまには縁が薄くて、今回は、高価なおひなさまにお目にかかれて、すばらしい絵画に出会った時と同じ感動でした。
- ・徳川のボランティアさんはとてもよく勉強されていて、説明も詳しく、私たちガイドも一緒に楽しく鑑賞することができた。(これについては逆に、説明が詳しすぎて障害のある方が疲れてしまったようだという意見もありました。一方的に話すのではなく、相手の様子を見ながら、相手に合わせて説明する必要があると思います。)
- ・説明をする時に、展示してあるものを端から説明するボランティアさんが多かった。まず全体に何がどのように並んでいるかを言ってから、細かい説明に入ってほしい。
- ・障害のある方に対して「あなた」と呼んでいるボランティアさんがいたが、きちんと名前を呼んでほしい。

### 3 「聴覚障害者のための鑑賞プログラム」

視覚障害者向けボランティア研修を実施し、実践的な活動が可能になった。受付カウンターでは「耳マーク」を設置し、筆記による聴覚障害者に対応を開始した。3月7日の「より多くの方に美術鑑賞の楽しみをー聴覚障害者のための鑑賞会と香袋づくりー」では、スライドと手話および筆記通訳により、解説がわかりやすくてよかった。香袋づくりについてもゆっくりと解説し、手話とタイミングよく、スムーズに実施できた。ボランティアの筆記による展示会説も参加者から好評だった。今回の研修と鑑賞会を生かし、聴覚障害者からの鑑賞希望があった場合、受入れ、鑑賞会の実施を計画したい。